

夏秋トマト（ミニトマト）の前半の肥培管理について

R2.5 アグリ技研(株)

1. 本年の長期気象予想（6～8月）

今年の夏(6月～8月)の気温は全国的に平年並みか高い予想で一昨年のように猛暑傾向で降雨量（大雨）も多くなる見込みです。

2. 一般管理について

(1) 光合成作用の活性化

植物は、空気中から CO₂ を根から水を吸収して酸素を放出して光合成産物（糖類）を茎葉や果実や根に転流して生育をします。梅雨の時期は、日照不足気味となり生育に障害を出しますので可能な限り葉面散布等で生育促進に努めましょう。

- ① 葉面散布には、「コラーゲン・ラボ」500倍で週に1～2回(生長点に処理)
- ② 根張の充実には、「アミクエ」5～10kを5～7日置きに灌水処理

(2) 土壌の改善。通気性対策

定植後（マルチ）100日程すると畝下部（根域）の通気性は極端に低下して来ますので、土の団粒構造（通気性良好）を良くすることは生育促進になりますから定期的な対策を講じましょう。

- ① 「フシヨクフル」10kを月に2～3回程液肥と混用して灌水処理

(3) 茎葉の軟弱気味の対策

梅雨や高温の時期に軟弱徒長気味では、光合成作用も低下しますので、葉色を濃くして、茎葉を硬くすることで同化能力を向上させましょう。

- ① 葉色には、「クドグリーン」500倍で葉面散布
- ② 茎葉の硬化対策には、「PKゴー」2000倍で葉面散布